

シンポジウム

記憶の風景と その表象

東アジアの歴史経験を共有する

3月1日(木) 13時～18時

基調講演 桜井 厚(立教大学) 「出来事と語り、そして語り継ぐ」

シンポジウム I 長崎・原爆をめぐる記憶の風景と表象

司会：葉柳 和則(長崎大学) コメンテーター：藤田 裕嗣(神戸大学)

木村 至聖(甲南女子大学) 端島／軍艦島をめぐる表象のポリティクス：「産炭地」長崎と近代国家日本
四條 知恵(九州大学) 原爆をめぐる意味付けの変容：純心女子学園の事例から
楊 小平(広島大学) 原爆体験を展示すること：広島平和記念資料館におけるモノと人を通じて
増田 研(長崎大学) 追悼する、発信する、記録にとどめる：長崎市内199基の原爆関連碑(いしぶみ)の主体をめぐる

3月2日(金) 9時～12時30分

シンポジウム II 19世紀以降のアジアをめぐる記憶の風景と表象

司会：才津 祐美子(長崎大学) コメンテーター：葉柳 和則(長崎大学) 増田 研(長崎大学)

藤田 裕嗣(神戸大学) シーボルト地図コレクションにみる「記憶の風景とその表象」
上島 智史(神戸大学) 日朝交流の記憶と景観：厳原・釜山を中心に
具 知瑛・李 秀烈(韓国海洋大学) 朝鮮殖民二世の意識構造
南 誠(長崎大学) 満洲移民をめぐる記憶と表象

総合討論



2012年3月1日, 2日

長崎大学文教キャンパス

総合研究棟2F 多目的ホール



基調講演

桜井厚(立教大学社会学部教授) 専門は社会学、ライフヒストリー研究。著書・編著に『過去を忘れない：語り継ぐ経験の社会学』(2008年)、『境界文化のライフストーリー』(2005年)、『インタビューの社会学』(2002年)、『屠場文化—語られなかった世界』(2001年)など。

主催：長崎大学第二期中期目標・中期計画における重点研究課題
(平成22年～平成27年) 持続可能な東アジア交流圏の構想に
向けた人文・社会科学のクロスオーバー：「共生」概念の学
際的統合にむとづいて

問い合わせ：南 lsk-minami@nagasaki-u.ac.jp
095-819-2783